

## 西周 (にし・あまね) 1829~1897

啓蒙思想家 ~ 日本近代哲学の開拓者 「哲学」の名づけ親~

**出生** 1829年(文政12)2月3日、石見国津和野(現・島根県鹿足郡津和野町)に津和野藩藩医西時義の長男として生まれる。幼名経太郎、明治維新後周と称した。

**履歴** 幼時から漢学に親しみ、藩校養老館に学ぶ。数え年20歳の時、朱子学に専念することを命じられ、大阪、岡山に遊学した後藩校の教官となった。1854年、ペリー来航にあたって江戸に派遣され、時勢の急迫を感じ、翌年脱藩して洋学に専心。1857年幕府の蕃書調所教授手伝並になり、同僚の津田真道や加藤弘之などととも洋学の研究を進めた。1862年から1865年までオランダに留学。帰国後、開成所教授となるが、その後京都に上り將軍徳川慶喜に仕えながら私塾を開く。大政奉還後は、沼津兵学校頭取、兵部省出仕を命ぜられるなど官職を歴任。1870年には家塾育英社を開く。晩年は東京学士会院会長、貴族院議員を歴任。



**事績** わが国に西洋の諸文明を総合的に紹介した最初の1人である。オランダ留学後、幕府の命令でフィセリングの講義「万国公法」を翻訳、出版。大政奉還にあたり、憲法草案「議題草案」を起草した。また、明治維新後は山形有朋のブレインとして明治軍制の立案に携わり、「軍人訓誡」を起草し更にそれを発展させて「軍人勅諭」の原案を作った。1873年に明六社が結成されるとこれに加わり、『明六雑誌』に多くの論説を発表し活発な啓蒙活動を行った。更に主観、客観、理性、悟性、帰納、演繹など多くの哲学用語を考案している。

**評価** 明治維新前後の文化史を語るときに欠かすことのできない人物であるが、同時代に活躍した福沢諭吉ほどよくは知られていない。また、研究論文はあるものの近年刊行された研究書の数は多くない。いわば忘れられつつある思想家の1人と言えるかもしれない。しかし、哲学ばかりでなく様々な分野で日本の近代化に貢献した功績は再評価されてしかるべきものと思われる。

### 代表作

『百一新論』 儒教批判の書で、「百教は一致なり」とする西周の根本思想をみるべきものといえる。巻末で「哲学」という訳語が初めて用いられており、Philosophyを哲学と訳した最初の文献である。全集第1巻に収録。

『復某氏書』 国学を批判しつつ知識論を展開したもの。全集第1巻に収録。

『百学連環』 百学連環とはEncyclopediaの訳語であるが、西周の学問研究を体系付けたものと見ることが出来る大作である。彼に関する研究の最重要な準拠資料ともなるべきものである。全集第4巻に収録。

**比喩** 西周と森鷗外とは親戚関係にあたる。即ち周の父時義は森高亮の次男で、森高亮は鷗外の曾祖父にあたるから、周にとって鷗外は従兄弟の子にあたる。森鷗外も津和野に生まれたが、年齢は30歳以上違う。伊藤整著『日本文壇史1』によれば、1874年頃、後の鷗外、当時11歳の林太郎少年は、通学の便のために神田の西周の家に下宿した。既に45歳の西は兵部省に勤務していたが、夕食前には帰宅して西洋流の肉食をとり、夜は翻訳や著述をしてからそのあとで酒を飲んだという。鷗外は西没後の1898年、正伝というべき『西周伝』を書いている。

**最期** 1897年(明治30)1月31日、大磯の別荘で死去。享年67歳。

## Great Works 02

西周全集 全4巻 宗高書房 1960~1971 <081.6 / 12>

**解題** 西周の代表的な著作については、『明治文学全集 第3巻 明治啓蒙思想集』(1967年 筑摩書房)、『日本の名著 34』(1972年 中央公論社)などに収録されている。前者の解説によれば、西周が生前に刊行した著作は、『百一新論』と論理学を解いた『致知啓蒙』の2冊、ほかに翻訳の3冊だけである。全集としては日本評論社から1945年に第1巻が刊行されたが、第2巻以下は未刊のままであった。宗高書房版の全集は当初全3巻の予定で1960年から1966年にかけて刊行されたが、前記日本評論社版全集の第1巻に収めた『百学連環』が久しく絶版のままであったので、これを追補して第4巻とし、全4巻となった。大久保利謙編。

## 内容

- 第1巻 【哲学篇】百一新論 [1874年] 復某氏書 [1870年頃執筆] 致知啓蒙 [1874年 日本初の形式論理学解説書] 知説 [1874年 知識論] 美妙学説 [執筆年不明 美学の解説] 教門論 [1874年 宗教論] 人世三宝説 [1875年 道德論] 心理説ノ一斑 [1886年 心理学についての講演] 他
- 第2巻 【法学・政治篇】万国公法 [1868年 オランダ留学時の講義録を邦訳] 憲法草案 [明治10年代の憲法私案] 燈影問答 [1870年 政治論 談話筆記] 他【社会・経済篇】経済学 [1877年頃] 社会党論ノ説 [1879年頃 社会主義思想論] 他【教育篇】東京大学卒業証書授与式演説 [1878年] 他【言語・国語篇】洋字ヲ以テ国語ヲ書スルノ論 [1874年 『明六雑誌』創刊号掲載のローマ字採用論] 他
- 第3巻 【軍事篇】兵賦論 [1878~81年 戦争論及び徴兵論] 軍人勅諭草稿 [1880年] 他【諸文集】[各篇に収めなかった初期の文章、雑誌論文、他著への序文等を収録]【紀行及詩歌】和蘭紀行 [オランダ留学に出発するまでの国内紀行。手帳から翻刻] 詩歌集 [漢詩と和歌] 他【日記及書翰】[現存する日記と書簡17通を収録]【雑纂】西家譜略 [1885年頃 前半生の自伝草稿] 西家系図 他 西周稿本目録 西周略年譜
- 第4巻 百学連環 [学問の体系を目次により示す。第1編 普通学 第1 歴史 第2 地理学 第3 文章学 第4 数学 第2編 殊別学 第1 心理上学 (神理学、哲学、政事学・法学、制産学、計誌学) 第2 物理上学 (格物学、天文学、化学、造化史)]

## 参考文献 ~この人をもっと知るために~

### < 図書 >

- 📖 西周と欧米思想との出会い / 小泉仰著  
三嶺書房 1989年 386p <121.6Y / 101> 資料番号 20168324
- 📖 西周に於ける哲学の成立 (神戸法学双書 20) / 蓮沼啓介著  
神戸大学研究双書刊行会 1987年 278,4p <121.9X / 169> 資料番号 20004529

### < 図書(部分) >

- 📖 西周 / 岩崎允胤著 (日本近代思想史序説 [明治前期篇] 上)  
新日本出版社 2002年 p66 - 158 <121.6LL / 170 / 1> 資料番号 21486113
- 📖 日本哲学の父 = 西周 / 船山信一著 (船山信一著作集 第8巻 日本の観念論者)  
こぶし書房 1998年 p29 - 54 <121.6 / 150 / 8> 資料番号 21083977
- 📖 「哲学」との出会い 西周 / 北野裕通著 (日本近代思想を学ぶ人のために)  
世界思想社 1997年 p4 - 23 <121.6MM / 180> 資料番号 21582267
- 📖 西周伝 / 森林太郎著 (鷗外全集 第3巻)  
岩波書店 1972年 p45 - 136 <918.6 / 293 / 3> 資料番号 12081295
- 📖 西周 啓蒙期の哲学者 / 古田光著 (日本の思想家 1)  
朝日新聞社 1962年 p105 - 120 <121.9 / 65 / 1>
- 📖 西周 / 昭和女子大学近代文学研究室編 (近代文学研究叢書 第3巻)  
昭和女子大学光葉会 1956年 p107 - 143 <910.26 / 20 / 3> 資料番号 11890449

### < 雑誌論文 >

- 📖 西周『致知啓蒙』を読む(上)(下) / 鈴木修一  
人文研究 (神奈川大学人文学会) 147,148 [2002,2003] <Z051.3 / 29>
- 📖 「西周日記」[全集未収録部分(明治20年~27年)の翻刻、連載中] / 川崎勝著  
南山経済研究 (南山大学経済学会) 14(3)(通巻37)[2000.2] ~ <Z330.5 / 101>
- 📖 『西周伝』と「西周日記」 / 中井義幸著  
図書 (岩波書店) 通巻607 [1999.11] <Z023.05 / 6>
- 📖 西周伝への若干の考察 - 慶喜と周、周と鷗外 / 村岡功著  
鷗外 (森鷗外記念会) 通巻64 [1999.1] <Z910.5 / 89>
- 📖 西洋哲学受容の開始 - 西周の思想的課題 / 保井温著  
立命館大学人文科学研究紀要 通巻59 [1993.10] <Z051.6 / 23>
- 📖 幕末における日蘭文化交流の一齣 - 西周と津田真道のオランダ留学をめぐる / 菅井鳳展著  
立命館文学 (立命館大学人文学会) 通巻451・452・453 [1983.3] <Z910.5 / 124>
- 📖 西周と経済学 / 杉山忠平著  
思想 (岩波書店) 通巻679 [1981.1] <Z051 / 5>